

こうち + クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集：肺がんダヴィンチ手術

高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

新年のご挨拶

高知赤十字病院院長 谷田 信行

県民の皆様、明けましておめでとうございます。常日頃からの病院へのご支援、ありがとうございます。

昨年前半は、新型コロナウイルス感染症に社会が振り回されましたが、後半からはやや落ち着きを取り戻してきました。当院職員、患者さん、ご家族の皆様の感染予防対策へのご理解、ご協力により、当院は安全な医療を提供することができました。改めて感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症流行時には、地域の先生方との連携がいかに大切であるかを思い知らされました。今後とも地域の先生方との連携構築に努めるとともに、皆様が安心して医療体制を提供することが、当院の使命であると考えています。

ところで、令和6年は辰年です。辰年には、大きな政変が起こることが多いと言われていいます。12月には、政治資金規正法違反で自由民主党に激震が走っています。また、令和6年は診療報酬改定の年でもあり、その成り行きを注視していますが、この政変が診療報酬改定に影響するのか、心配するところです。

最後に、愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指すとの当院の理念を実現するために、職員一同努力していく所存です。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



伊藤事務部長

谷田院長

小松看護部長

本年1月1日、石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震が発生しました。能登地方の震度7をはじめ、近隣の地域でも震度5を超える大きな揺れと津波を観測し、多数の家屋倒壊、大規模火災が発生するなど甚大な災害となりました。

この度の災害で犠牲となられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にご挨拶申し上げます。また被災されました皆様にお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

中学生を対象とした体験会

「医療体験ラボ」を開催しました。

10月9日(月) 医療の仕事に関心のある中学生を対象に、病院の仕事を体験していただく医療体験ラボを開催しました。

医療体験ラボには、11名の中学生が参加。白衣と聴診器を身に付けて医師になりきってもらい、内視鏡検査体験、薬剤部体験、一般検査体験、手術室見学と、4つのテーマを体験していただきました。

体験中は、スタッフからの説明を熱心に聞き入ったり、調剤や医療機器の操作を一生懸命に取り組んだり、真剣に学ばれていました。

参加中学生からは、普段見ることができない医療技術や機器に触れることができ、楽しく学ぶことができた。放射線治療などそのほかの医療体験もしてみたい。など、たくさんのコメントをいただきました。

今回の体験会は地元テレビ局のテレビ高知とのコラボ開催となりました。体験会の様子は、テレビ高知の番組やホームページ内でも紹介されています。



指の再接着など微細な手術を必要とする
「手術用顕微鏡見学」



実際エコーを人体に当て、
画像を映し出す
「超音波検査体験」



滅菌された手術機材がずらり!!
「手術室見学」



複数の軟膏は混ぜ合わせ
「調剤体験」



豚の胃を使った
「内視鏡検査体験」



この手術、どんなところがいいの？

ロボットの手は人間が操作しますが、ブレがなく安定しています。鉗子の関節が多いので、繊細な操作を可能にします。3Dの視野で立体的な視野で手術できます。

鉗子の操作性の向上(直感的で柔軟な動き)

モーションスケールリングといって、術者の手の動きは鉗子先に1/3に縮小して伝えられるため細かな精密な操作が可能です。また手ぶれ補正装置も付いています。

鉗子の先に関節があり自由に動く

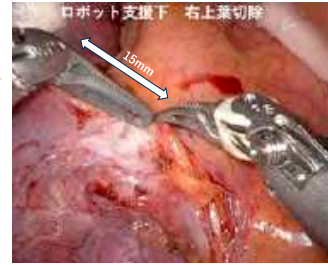
専用鉗子であるエンドリストは、従来の胸腔鏡手術の鉗子の自由度に加えて、胸腔内における手首の動きを加えて自由度を実現しています。そのため狭い術野でも鉗子が自由に動きます。

鉗子先の大きさは15mm
一円玉の大きさと
ほぼ同じです



高解像度3D画像

内視鏡に両目のレンズを持ち、3D映像を表示します。拡大視野で狭い場所も観察することが可能で、組織の細かい構造まで明瞭に見ることができます。



ここがいい!

手足を同時に動かしながら
カメラや鉗子を細かい動きで
操作します!

ロボットの腕



足

手

呼吸器チームの考え方

手術は術者一人では遂行できません。看護師や臨床工学技士といった手術室スタッフの協力により良い手術を患者さんに提供しています。呼吸器内科医、呼吸器外科医はもとより、看護師や栄養士、理学療法士や薬剤師といった医療スタッフがそれぞれの専門性を発揮し連携し、補完しあいながら患者さんのその人らしい治療後の生活を実現するためにチームで治療にあたっています。

当院にはこのような環境が整っております。この環境に感謝し、我々医師が学んできた知識や技術を患者さんに届けることができれば嬉しいと考えております。

ダヴィンチの準備は
お任せください

僕たち
臨床工学技士



どのように紹介したらいいの？

検診発見やフォローアップの患者様の画像で気になる点などございましたら、お気軽にご相談ください。地域連携室経由はもちろん、呼吸器外科への直接ご紹介でも対応させていただきますのでお気軽にご連絡をお願いします。

呼吸器外科
ホームページ
詳しくはこちらから



肺がんダヴィンチ手術のご案内



松岡 永

吉田 光輝

山田 亮

当院には呼吸器外科専門医が3名在籍しています。患者さんの要望に少しでも応えられるよう話を良く聞いたうえで病気や治療方法の説明をさせていただきます。患者さんに安心して治療に専念していただけるよう精度の高い手術を提供いたします。

高知赤十字病院 呼吸器外科の強み

当院は高知市中心部の地理的に恵まれた環境にあり、各診療科の医師はもちろん、麻酔科、集中治療部の専門領域の精鋭医師がICUでスタッフと共に全身管理を行っています。また、大血管と癒着のある腫瘍には心臓血管外科の医師と共に行える拡大手術も選択できます。

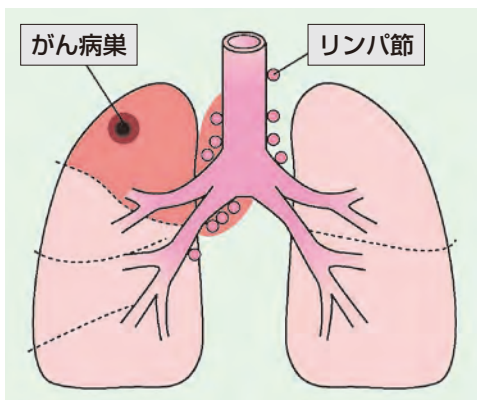
ダヴィンチ手術ってなに？

ダヴィンチ(ロボット支援)手術とは、写真のような器械を患者様と離れた操作装置でロボット鉗子を操作し繊細な手術を行う手技です。

日本では2018年から保険収載になりましたが、米国では約20年ほど前から始まり、歴史的には確立した手技となっています。

肺癌の手術ってどんなことするの？

心臓と肺の血管はつながっていて、肺の血管を丁寧に処理し、気管支を処理して肺を切除します。胸腔の中で袋に入れて、肋骨の間から取り出します。



肺癌の手術は、癌病巣と共に肺実質を房ごと取り除きます。

「ダヴィンチ」の魅力とは？

患者さんに優しい内視鏡下手術の特徴を生かし、患者さん、医療従事者ともに負担が少なく手術を行うことのできる内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」。低侵襲治療により早期の社会復帰をサポートします。

経過がよければ1週間ほどで退院でき、翌日から食事、歩行も可能です。

ロボット支援手術の創部イメージ



創部の写真



術後9ヶ月
創部の写真です



うちの
専門家

3学会合同呼吸療法認定士

呼吸器疾患や呼吸の管理で治療する患者様の質の向上にむけて



呼吸器疾患や呼吸の管理を必要とする患者様に対して呼吸療法（人工呼吸管理、酸素療法、呼吸リハビリ）が重要となります。より専門的に呼吸療法を行うための資格として、日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔科学会の3学会が創設した認定制度で「3学会合同呼吸療法認定士」という資格があります。

当院では、看護師6名、臨床工学技士2名、理学療法士8名、作業療法士1名がこの資格を取得しております。それぞれの職種において呼吸療法を習熟しております。

当院リハビリテーション科においてはこの資格取得によって、より専門的に医療提供が行えております。特に、集中治療室において人工呼吸器の離脱に向けての呼吸療法や、肺や食道の手術をする患者様に対して術前から呼吸リハビリ指導を行い術後の合併症予防に努めております。また、慢性呼吸不全の増悪・肺炎などの患者さんに対して呼吸訓練といった呼吸リハビリテーションを提供しております。

更に、リハビリテーション科の資格取得者が中心となって、高知県下における当院以外の医療スタッフに対して、呼吸リハビリテーションの研修会を定期的に開催しております。今後も、高知県における呼吸リハビリテーションの質の向上に努めていきたいと思っております。



呼吸を楽にするストレッチ体操中



呼吸筋を鍛える運動

リハビリテーション科部 川田 久雄

排尿自立支援チームの活動紹介

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 谷本 早苗

皆さん、排尿自立支援チームって聞いたことありますか？

このチームは、下部尿路機能障害を有する患者さんを対象に、薬剤治療やトイレ誘導、導尿のタイミングなどについて多職種でカンファレンスを行い、排尿自立に向けた支援を行っております。当院では2020年に排尿自立支援チームを発足し活動を開始しました。チームは、泌尿器科医師2名、排尿自立支援専任看護師3名、理学療法士1名、作業療法士1名で構成しています。対象患者は、「尿道カテーテル抜去後に尿失禁・尿閉などの下部尿路機能障害の症状を有する患者、または尿道カテーテル留置中の患者であって尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を生じる可能性がある患者」となっています。尿道カテーテル抜去後に排尿障害でお困りの患者さんは、積極的にチーム介入をしたいと考えています。

チーム成績としては、2022年には介入した患者の約61%が排尿障害を改善することができています。今後も更なる改善につながるように、地道に取り組んでいきます。

チーム構成員

医師(泌尿器科): 奈路田拓史、中西茂雄

専任看護師: 矢野明美(8東師長)、谷本早苗(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)、
山崎皓太(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)

理学療法士: 大井沙穂

作業療法士: 山下貴広



令和5年度 日本赤十字社高知県支部災害医療救護訓練に参加しました

10月7日、8日の日程で高知市総合あんしんセンターにて開催された災害医療救護訓練に、救護班主事として参加しました。

初日は、広域災害・遠隔地派遣のグループワークから始まり、災害時に使用する様式である災害診療記録2018とJ-SPEED（災害時診療概況報告システム）の実習、EMIS（広域災害救急医療情報システム）、高知県の大規模震災を想定したDIG（災害図上訓練）などを行いました。J-SPEEDやEMISの実習では、実際にスマートフォンやPCを使用し、災害時における情報共有の方法やその重要性を学びました。

2日目はあいにくの雨となり、城西公園で実施するはずだったテント設営の訓練はできませんでしたが、会場設営とロープ操作を行った後、避難所活動や救護所活動の訓練などの実践的な訓練をしました。救護所訓練では、主事として物品・患者・救急車等の情報を収集

第一放射線科部 森 亮輔



森技師

し、共有することの難しさを実感しました。

今回の訓練で学んだことを忘れず、適切な対応ができるように今後も研修に参加したいと思います。

令和5年10月7日から2日間にわたり、令和5年度「日本赤十字社高知県支部災害医療救護訓練」へ、救護班として参加をしました。

1日目は、救護班グループに分かれ、広域災害と遠隔地派遣についてのグループワーク、災害現場での情報共有ツールとして電子端末を用いたEMIS、J-SPEEDの使用方法、災害時に使用する様式を用いた実習、机上シミュレーションなどを行いました。

2日目は、実際の災害を想定した「避難所活動」と「救護所活動」について実動訓練を行いました。避難所では、被災者ニーズに添うための情報収集について学ぶことができました。また、救護所活動において



湯田平看護師

手術室 湯田平 千春

は、傷病者のトリアージから傷の手当て、診療の優先度や搬送などを円滑に行うための役割分担やコミュニケーションの重要性などを再認識することができました。

実際の災害現場においては、十分な設備もなく、限られた資源や想定外の状況下の活動になります。平時からの備えや訓練の必要性について改めて認識することができ、貴重な経験となりました。



UEG Week 2023 Copenhagen に参加して

内科医師 重久 友理子

10月14日～17日デンマークの首都コペンハーゲンにて開催されました国際学会「United European Gastroenterology Week Copenhagen」に、消化器内科内多医師、前田医師、筆者重久が参加、ポスター発表をさせていただきましたのでご報告いたします。

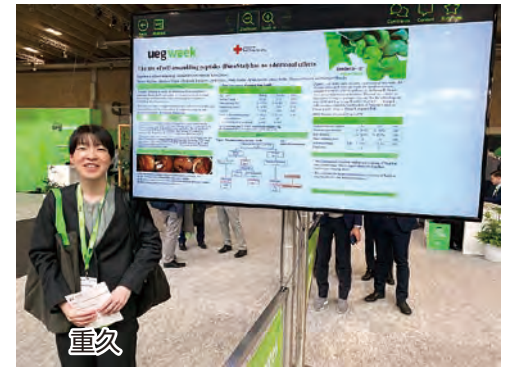
UEGWとは、ヨーロッパの主要都市で年1回行われる消化器部分野の学会週間であり、アメリカで開催されるDDW（米国消化器病週間）とならび最大規模の学会です。コロナ禍の2020、2021年はウェブ開催、2022年は現地開催が再開されており、当施設は2019年ぶりの参加となり、3題のポスター発表を行いました。

内多医師の「Novel magnifying endoscopic finding, capillaries pushed up by cloudy mucosa (CPCM) maybe supportive marker for post-Helicobacter pylori early gastric cancer」の演題では、ピロリ除菌後では胃がんの診断が難しくなるとされていますが、拡大内視鏡所見で、がん細胞の存在により白っぽい粘膜で毛細血管が押しあげられる像が見られることがあり、この所見がピロリ除菌後胃がんの診断に有用であることを発表しました。前田医師の「Novel treatment of combining EFTR and LIGS is safer and less invasive technique for gastric submucosal tumor」では、最近施行されている粘膜下腫瘍に対する治療で内視鏡のみを用いて切除、縫合する内視鏡的全層切除術(EFTR)は、機器が高価、難しいといった問題点がありますが、腹腔鏡ポートを胃に直接作成し胃の中から手術を行う胃内手術(LIGS)を組み合わせることで、より安全で手技も難しくなく、安価な低侵襲治療であることを発表しました。筆者の「The use of Self-assembling peptides (PURASTAT) has no additional effect」では大腸憩室出血における止血法で、従来の止血法クリップ法にピュアスタットを併用しても再出血予防効果はなく、さらなるピュアスタットの有効な使用法の検討が必要であることを発表しました。

国際学会での発表は筆者は初めてで、他施設の先生方と交流する機会もあり、大変貴重な経験をさせていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また今回の学会参加にあたりご協力いただきました事務方の皆様にも重ねてお礼申し上げます。

童話王アンデルセンを生んだデンマークは「おとぎの国」と称され、緑の森と色とりどりの花々、青い湖沼に海岸線、整備された公園のような美しい景観が魅力です。その首都コペンハーゲンは「北欧のパリ」とも言われ、重厚な煉瓦や石造りの建物にカラフルな木造家屋、近代的な建物が上手く調和した美しい町並みが広がっており、日本とは異なる景観を楽しむことができました。

今回の経験を糧に質の高い内視鏡診療を提供できるよう今後研鑽を積んでまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



筆者ポスター



内多先生ポスター



前田先生ポスター



ローゼンボー宮殿前にて筆者と前田先生

CAFE CROSS

★ 研修医一年目のご紹介 ★

RESIDENT INFORMATION



みしま はるき
三島 治起 (高知大学卒)



医師を志したきっかけは？

小さい頃にお世話になった小児科の先生に憧れました。喘息でよく治療していただいて、今でも子供にとってのヒーローみたいな先生であり、成長しても子供の時の記憶が残るような医師は素敵だと感じました。

これが好き♡

ゲーム、ドライブが好きです。ゲームはアクション系が好きで、1日中時間を費やしていた時もありました。

ドライブは燃費を一切気にすることなく、エンジン音を楽しむことが好きです(もちろんルールの範囲内で)。ガソリンの残量を確認しておらず、ガソリンスタンドが近くにない山道で、危うくガス欠しかけたことがあります。



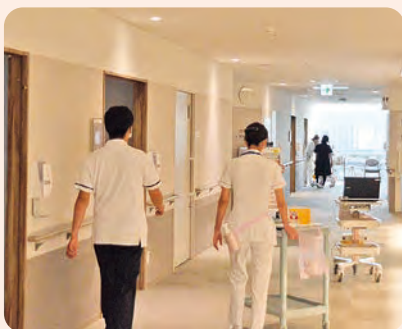
私、スゴインですよ

大学生の時にヨット部として参加した行事で、高知大学朝倉キャンパスから室戸岬まで90km以上を貫歩したことがあります。新入部員1年生は強制参加だったので、歩いている当時は絶望一色で、後ろから笑いながら車で着いてくる先輩たちを恨めしく思っていたんですが、今となっては良い思い出となっています。



研修への意気込みをひとこと★

謙虚な姿勢を忘れずに精進致します。ご指導ご鞭撻の程宜しくをお願いします。



また実習を通して、医師よりも看護師の方が患者やその家族と深くかかわっているなど感じました。患者も看護師に対しての方が気さくに話していました。患者と接する時間の長い看護師は患者の変化に気づくことができると思います。患者の些細な変化に気づけば、看護師から医師に相談してもらおうという形が理想だと思います。そのためにも看護師との日々のコミュニケーションが大切であり、些細なことも相談してもらえ話しやすい医師になりたいと今回の実習を通して改めて思いました。

10月13日、7東病棟の看護部実習をさせて頂きました。
食前の血糖のチェック、薬の投与、食事の介助、喀痰の吸引、体位変換、バイタルのチェック、カルテ記載、入院患者のご家族に対する説明など予想していた以上に看護師の仕事の量が多かったです。また看護実習をしてみることで、食事の介助はとても時間がかかる、体位変換には人手がいるなど具体的に何が大変か理解することができました。



研修医 森田 晴樹

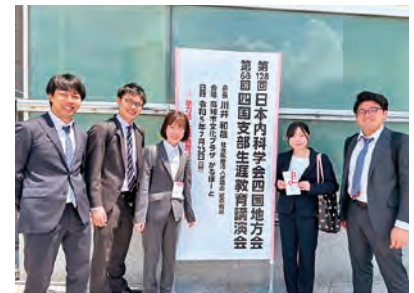
研修医 コメディカル実習

初期臨床研修医奨励賞受賞

今回、高知県で開催された第128回日本内科学会四国地方会にて「バルプロ酸内服中に発症した意識障害に対して、カルニチン補充が有効であった1例」を発表させていただき、初期臨床研修医奨励賞をいただくことができました。恥ずかしながらカルニチン欠乏について詳しく知らず、日本、海外の論文を参照しながら理解を深めていきました。カルニチン欠乏は様々な症状を引き起こしますが、補充をすることで改善できる病態です。しかしカルニチン欠乏による高NH3血症に対して肝不全用アミノ酸製剤のみを投与した場合や重症例では脳症を発症し死亡するケースもあります。学会発表を通じて新しいことを学んでいく楽しさと同時に、自分の知識の有無で患者様を治療できるかどうか左右されるのだと感じました。改めて日々研鑽を積んでいくことの大切さに気づかされました。研修医生活も残りわずかとなってきましたが、今後も探求心を忘れずに一つ一つの症例に真摯に向き合っていきたいと思えます。最後になりましたが、今回ご指導いただきました全ての方々に感謝申し上げます。今後とも精進してまいりますので、御指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



初期臨床研修医
片岡 なな子



新入職員紹介

(令和5年9月1日〜令和5年10月31日)

- 氏名
- 所属・職種
- 趣味・特技
- 抱負
- 地域の先生にひとこと(医師のみ)



松本 秀志
医師
糖尿病・腎臓内科

- スポーツ観戦
- 腎臓、リウマチ、糖尿病、内分泌分野を中心に内科全般を診療させていただきます。よろしくお願ひいたします。
- 微力ながら高知県の地域医療に貢献したいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。



合田 有一郎
医師
整形外科

- 釣り
- 高知赤十字病院の一員として、皆様と協力し、チームでの医療を心がけていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。
- 脊椎疾患を中心に、外傷他、整形外科疾患に対して幅広く対応していきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。



小松 雄三
医師
循環器内科

- 掃除、読書
- 少しずつでも進歩できるよう努力します。
- まだまだ未熟ではありますが、精一杯努めて参りますので、よろしくお願ひいたします。



吉本 大治
医師
脳神経内科

- ドライブや美味しいものを食べるのが趣味です。特技はありません。
- 自分の得意な分野に限らず、幅広く皆様のお役に立てるように頑張ります。
- 地域医療に貢献することが出来るよう、日々の診療に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



應治 里沙子
事務
医師事務支援課

- 私の趣味は海外のドラマ鑑賞です。最近では、特に韓国ドラマを見る事が好きです。海外ドラマで、異文化や価値観等を学べるからです。
- 私はこれまでの医療事務の経験を踏まえて、多くの患者様が訪れる医療の場で医師を支援することで、間接的に患者様にも貢献したいと考えます。常に学びの姿勢を忘れず努力していきたいです。

リレー・フォー・ライフ

8東看護師 田村 直子

今回はリレー・フォー・ライフ2日目に参加しました。青空の中、参加されていた皆さんとルミナリエバッグを並べて作られたウォーキングコースをゆっくり歩きました。バッグに描かれた優しい絵や温かいメッセージを見ながら、今まで出会った患者さんやご家族を思い出し、勇気やはげまし、癒やしの気持ちでいっぱいになりました。

がんはまだみんながみんな治ることはなく、辛い思いや

不安をもって過ごされている方もたくさんいらっしゃると思いますが、いつかがんが制圧される世の中になるよう希望の未来を願い、信じたいと思います。このイベントに参加し、私にできることをまたひとつひとつやっていきたいと改めて実感しました。参加できてよかったです。皆さんも是非来年参加してみてください。



移植を受けた子どもたちの作品展

院内コーディネーター 三木 初美
尾谷 智加



今年も高知腎バンク協会さんによる「移植を受けた子どもたちの作品展」～いのちのおくりもの～を、2階外来フロアにて開催することが出来ました。たくさんの方に見ていただき、本当にありがとうございました。貼っていただいたシールを子どもたちに届けることで、今後の励み、感謝に繋がると思います。

今後またたくさんのかげがえのない命が、繋がることを祈りたいと思います。



高知赤十字病院
ホームページ

<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>



高知赤十字病院
Facebook

<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>



よろしければ
フォロワー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

